



平成 20 年度「ひと、輝くまち 倉敷。」
市民企画提案事業について

答 申

平成 19 年 12 月 27 日

倉敷市市民企画提案事業審議会

平成 20 年度「ひと、輝くまち 倉敷。」
市民企画提案事業について（答申） 目次

	頁
市民企画提案事業審査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	1
委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
参考資料	
（1） 諮問書・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2
（2） 倉敷市市民企画提案事業審議会条例・・・・・・・・	1 3
（3） 倉敷市市民企画提案事業実施要綱・・・・・・・・	1 5

平成20年度
「ひと、輝くまち 倉敷。」
市民企画提案事業審査結果

倉敷市市民企画提案事業審議会

倉敷市市民企画提案事業審議会は、倉敷市が実施した平成20年度「ひと、輝くまち 倉敷。」市民企画提案事業募集において、応募のあった行政提案部門3件、市民提案部門5件の合計8件の企画提案について審査をさせていただきました。

倉敷市市民企画提案事業は、倉敷市に新たな「公共の担い手」が創出され、市民サービスの向上に繋がるなど行政運営の機運が醸成されることをめざしています。この事業を採択するにあたり、審議会では提案事業が果たす役割や公益性、中立性、協働性などの観点から審議を行ってまいりました。

各団体の応募書類を審査するなかで、提案している事業を通じて市民の自助努力による地域復興とコミュニティ再生への期待や意識改革の必要性への意欲がひしひしと伝わってきました。

また、公開プレゼンテーションや書類の内容から、事業計画や予算配分等質の高い企画書となっていたことも感じたところです。

結果として、全ての提案事業について採択基準点を超えているとして選定するに至りました。各提案事業の講評については、審査結果と併記させていただきました。

最後になりますが、倉敷市民企画提案事業の公募に応じいただき、更には審査に係る質問等に対しても丁寧にご対応してくださった関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

平成19年12月27日

倉敷市市民企画提案事業審議会
会 長 鈴 井 江三子

【選考過程】

10月28日に開催された公開プレゼンテーションでの事業提案に関する説明と質疑応答、次いで12月5日に行政関係課意見及び公開プレゼンテーションでの審議会からの講評に対する結果を事務局が説明し、これを踏まえて本審査を行いました。

審議会では、当初の事業提案書や公開プレゼンテーションでの事業説明に対して、記述が不十分である提案や収支予算計画について精査の必要がある提案も見受けられたことから、疑問点について回答を求めながら、当初の事業提案書だけでは判断しきれない事業実現の可能性と提案団体の姿勢の評価に努めてきました。

また、提案団体と行政関係課の調整・意見交換内容についても吟味し、特に行政提案部門については、市民団体と市が課題認識や事業目的を共有し、双方の役割分担を明確にすることが地域の課題解決につながるとの立場から、募集テーマと提案内容の整合性についての確認にも重点をおきました。

最終的には、行政提案・市民提案両部門とも、公益性・中立性・協働性だけでなく、独自性や将来性、事業実施における費用負担・人材配置などを判断基準とする総合評価方式で選定させていただきました。

【選考基準】

審査基準Ⅰの審査項目を全て満たす提案について、審査基準Ⅱの採点に進むこととしました。審査基準Ⅱの点数については、提案事業ごとに各委員100点を持ち点とし、その合計点から最高点及び最低点を差し引いた得点の平均点を評価点とし、採択基準点は評価点が50点以上の提案としました。

審査項目及び配点は次のとおりです。

審査項目		審査のポイント		配点
基準Ⅰ	公益性	A	不特定多数のものの利益の増進に寄与するなど公益性の高い事業である。	はい いいいえ
	中立性	B	市が補助することについて、疑義が生じる要素がない。	はい いいいえ
	協働性	C	市民団体と行政が協働すべき領域で、市民団体が取り組む方が効果があがる事業である。	はい いいいえ
	全項目「はい」か			はい いいいえ
基準Ⅱ	① 目 的 (公益性) (緊急性) (重要性)	1	不特定多数のものの利益の増進に寄与するなど公益性の高い事業である。	20点
		2	市民団体と行政が協働すべき領域に属する提案(課題)内容である。	
		3	課題の緊急性や重要性が具体的に示されている。	
		4	その目的や緊急性・重要性は、事実に基づき確認している。	
		5	その課題になぜ取り組まなければいけないのかというニーズに共感できる。	
	② 事業内容 (計画性)	6	市が補助することについて、疑義が生じる要素がない。	20点
		7	目的に沿った事業計画がつくられている。	
		8	実施にあたり、十分な準備期間・手段が取られている。	
		9	実施時期は適当である。	
		10	より多くの人が参加できるような工夫がある。	
		11	地域住民の理解を得られ、市民満足度が高まる内容である。	
		12	提案団体の特性(ノウハウ)を活かした内容である。	
	③ 費用負担	13	収支計画は適切である。	10点
		14	申請金額は適切である。	
		15	自己資金の調達は担保されている。	
		16	予算配分は適切である。	
	④ 人材配置	17	計画を遂行する技能・能力(人的資源)がある。	10点
		18	ボランティアスタッフの力を生かす組織となっている。	
	⑤ 協働性	19	市民団体と行政が協働すべき領域で、市民団体が取り組む方が効果があがる事業である。	20点
		20	提案団体と市の役割分担が明確かつ妥当なものである。	
		21	市(行政)に求めている役割(協働内容)は具体的かつ適切である。	
	⑥ (独自性) (将来性)	22	先進的・先駆的な事業内容である。	20点
		23	発展・普及性がある事業内容である。	
点数合計(100点満点)				

市民提案部門 講評

各提案に対する講評は以下のとおりである。

事業名	竹林音楽祭
団体名	エコプロジェクト事業推進委員会
分野	まちづくりの推進を図る活動
事業概要	箭田大塚古墳周辺の竹林で、竹を材料とした楽器等の演奏による音楽祭を行う。整備された緑の竹林の美しさを鑑賞していただくため、ライトアップ、竹キャンドルによる演出を行う。
補助予定額	600,000円（総事業費 1,508,000円）
講評	本事業は、応募のあった8件のうち最も高い評価を受けたもので、箭田大塚古墳内の竹林を活かした音楽祭であり、地域資源である竹に焦点を当てた取り組みであった。また、地域資源である竹に着目し、特産品としての位置付けを行おうとすることは、地域の活性化にも繋がると考える。 なお、実施にあたっては、参加者の安全性確保及び箭田大塚古墳の原形保存について、十分に配慮していただくよう要望する。

事業名	いじめ・不登校・虐待への新たな対応 ～福祉的視点を通じて～
団体名	特定非営利活動法人 kitalpha
分野	子どもの健全育成を図る活動
事業概要	「いじめ・不登校・虐待への新たな対応」に関する講演会とパネルディスカッションを開催する。理論及び実践に関する講習会を開催する。各講習会や講演でアンケート実施し、データを集計する。
補助予定額	438,000円（総事業費 584,000円）
講評	いじめ・不登校・虐待に関する状況は、学童期の子どもたちに深刻な影響を与えるため、解決に向けた取り組みが急務な課題である。これらの改善に向けた取り組みは、社会の要請に応えるものであると評価した。 今回の提案内容は講演や講習会に限られているが、「いじめ・不登校・虐待」を無くしていくための具体的な実践活動に発展していくことを期待する。

事業名	ドメスティックバイオレンス防止の為の啓発及び被害者サポート事業
団体名	びあサポート・倉敷
分野	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
事業概要	名刺大の大きさのカードを作成し、リーフレット等と共に各種イベントで配布する。暴力撲滅推進月間(11月)に電話相談を受ける。相談によっては個別相談も受ける。
補助予定額	243,000円 (総事業費 325,000円)
講評	本事業は、潜在しているDV被害者に相談窓口を周知するものであり、団体会員が様々な活動に参加し、広く啓発活動を行うことを評価した。 また、電話相談窓口を開設し、個別の対応を行う企画も社会的ニーズに合致した内容であると考ええる。 なお、DV電話相談が長期にわたって継続して実施されることを期待する。

事業名	わくわく親子イベント 僕たちの未来を描こう
団体名	おかやまコープクラブ倉敷子どもの未来を考える会
分野	学術、文化、・芸術又はスポーツの振興を図る活動
事業概要	夏休みに親子で未来について真剣に考えるわいわい会議を開催します。その後、子ども達は豊かな発想で絵を描いて、美術館で展示します。 子ども達の作品を多くの市民が鑑賞するように絵本の読み聞かせやコンサート等を実施します。
補助予定額	243,000円 (総事業費 325,000円)
講評	本事業は、親子で触れ合う機会を提供し、その中で、子ども達が豊かな発想で絵を描き、美術館で展示し、音楽を聴きながら感性を育てる内容を評価した。また、子どもの描いた絵が美術館に展示されることは、子どもの自己肯定感を育成する上でも意義があると考ええる。 行政とも連携し、広報活動を行い、広く地域の親子が参加する事業になることを期待する。

事業名	母と子のスタートライン支援事業
団体名	さくらんぼ教室
分野	保健, 医療又は福祉の増進を図る活動
事業概要	“場”を提供することで, 情報交換が行いやすくし, 助産師の専門性を活かした支援プログラムをすることで母子の孤立化を防ぐ。
補助予定額	300, 000円 (総事業費 400, 000円)
講評	本事業は, 産後の母子を対象にした交流会の場を提供することと, 孤立しやすい時期に焦点を当てて育児支援を行うことを評価した。また, 助産師や産婦人科医による専門知識の提供は, 特に子育てが始めての初産婦には必要性のある企画であると考え。 なお, 広く一般に参加者を募集するように, 広報活動に務めていただくことを願います。

行政提案部門 講評

行政提案部門の事業は、市が求めるテーマを実践する内容であるかも審査の対象とした。3事業提案とも、市が求める内容と団体が提案する事業の内容が一致していることを確認した。各提案に対する講評は以下のとおりである。

事業名	乳がん撲滅キャンペーン！！と乳がん術後のケア！！
団体名	QOL“輪唱”岡山 テイクハート
テ ー マ	女性を乳がんから守る事業
事業概要	乳がんの正しい知識と早期発見の為にマンモグラフィ及び自己検診の重要性についての講演。 体験者により術前・術後の精神面及び日常生活のサポートの大切さを知ってもらうとともに、必要な人にはサポートを行う。
補助予定額	600,000円（総事業費 600,000円）
講 評	本事業は、乳がんの正しい知識とマンモグラフィなどの乳がん検診の重要性についての講演会や相談会を開催する事業であり、市が求める乳がん検診の普及啓発の推進と事業内容が一致している。 特に、乳がん体験者からの術後ケアは、再発を不安に思う女性にとって心理的負担を軽減するものであるとして高く評価した。 また、専門医による講演会は、乳がんの早期発見を行うためにも重要であり、行政と協働して広報活動を行い、参加者の拡大が図られることを期待する。

事業名	三島中洲の資料情報の収集と台帳化
団体名	中島学区郷土を学ぶ会
テ ー マ	郷土出身の文人墨客の資料収集・研究事業
事業概要	三島中洲に関する講演会の開催。情報収集・研究成果の小冊子の刊行。関連資料の搜索・情報収集活動。資料のデジタルデータ収集と台帳化。中島小学校の総合学習の題材とする。三島中洲の設立した二松学舎大学との連携を図り、研究の道筋をつくる。
補助予定額	600,000円（総事業費 750,000円）
講 評	本事業は、三島中洲生誕の地である中島学区の郷土史を研究しているグループが資料収集に取り組むものであり、市が求める郷土の文人墨客の資料情報の把握と事業内容が一致している。 単に資料発掘活動に止まらず、講演会の開催、資料や研究成果について的小冊子の刊行、及びそれらを中島小学校の総合学習の題材とするなど、三島中洲顕彰活動を含む事業内容への熱意を高く評価した。 地縁のネットワークを活かした所蔵品調査による新たな資料発掘を期待する。

事業名	『たんぽぽの花を咲かそう』 ー地域ネットワークの中で、無理のない楽しい子育てをー
団体名	特定非営利活動法人 倉敷子育てネットワーク・たんぽぽファミリー
テ ー マ	楽しく元気に子育てが出来る環境づくり事業
事業概要	子育てを支援する団体とのネットワークを構築し、親子ふれあいイベント(音楽鑑賞・生演奏)ピクスやベビーマッサージをする。そして、地域の人的・物的資源を有効に活用しながら、無理なく子育て支援を行う。
補助予定額	600,000円 (総事業費 624,000円)
講 評	本事業は、助産師の専門的知識を活かした子育て支援イベントを地域に出向き実施するなかで、参加した保護者のニーズを調査する事業内容であり、市が取り組もうとしている保護者が楽しく元気に子育てが出来る環境づくり整備に向けての取組みと内容が一致している。 助産師の専門的知識と技術を用いて産後の母子を支援するだけでなく、地域の人的・物的資源を掘り起こし、子育てネットワークを構築する試みを評価した。また、参加者アンケートを行うなど、今後の子育て支援の方法を検討することは意義深いと考えるので、提言書の内容に期待する。

【審査講評】

今回は、当初10件の市民企画提案事業が応募されました。そのうち、1件は公開プレゼンテーションの前に、1件は最終審査前に取下げとなり、最終審査を行ったのは前述の8件でした。

審査基準に基づき公正かつ慎重に、また、支援の意味もこめて審査した結果、8件とも審査基準を満たした提案としました。

平成20年度の事業採択に向けて、提案団体から提出があった事業提案書類やプレゼンテーションの内容を基に、事業内容や予算配分に関するアドバイスを行ってきました。そうした採択に向けての支援が功を奏し、最終的に提出のあった事業提案書類は、より一層事業の内容が明確になり、実現可能なものであったと考えます。

事業採択に向けた市民と行政の調整作業は、時間と手間がかかりますが、このプロセスこそが市民企画提案事業の目指す行政と市民の協働であり、市民の自助努力による地域復興とコミュニティ再生への意識改革の一翼を担う事業であると考えます。

年々、提案の内容もかなりレベルアップしていることが感じられました。また、市民団体育成に向けた行政の取り組みを評価するとともに、一層、多様化したニーズの担い手である市民団体との協働をすすめることを期待するとともに、各提案事業における協働のプロセスを注目したいと考えます。

最後に、今回の提案はいずれも市民の底力を感じさせるものであり、市民と行政の協働により市民満足度が高まることを期待します。

倉敷市市民企画提案事業審議会委員名簿（50音順・敬称略）

	氏 名	所 属 等
	あきやま だし 秋 山 正	倉敷市議会 議長
	あさはら まゆみ 浅 原 真 弓	玉島おかみさん会 代表
	あ だち れいと 安 達 励 人	倉敷市立短期大学 助教授
	か とう きよ つぐ 加 藤 清 次	倉敷商工会議所 総務部長
副会長	しらかし ひさし 白 樫 久	ノートルダム清心女子大学 教授
会 長	すずい えみこ 鈴 井 江三子	川崎医療福祉大学 教授
	つちや ひとみ 土 屋 瞳	男女共同参画フォーラム2000まび 代表
	みちひろ りさぶろう 道 広 利三郎	市民公募委員
	もり ひろ のぶゆき 森 廣 伸 之	岡山県備中県民局協働推進室
	もり や み ゆき 守 屋 美 雪	市民公募委員
	もり わけ とし あき 森 分 敏 明	倉敷市議会 総務委員会委員長